

第7回 Next Package2024

～人と技術の交流が未来を包む～を振り返って

第7回 Next Package 2024 実行委員長
TOPPANホールディングス株式会社 大日方 野枝

1. 第7回 Next Package 2024 の開催にあたって

2024年11月28日に第7回Next Package2024～人と技術の交流が未来を包む～を、秋葉原・UDXカンファレンスギャラリーにて開催致しました。出展企業43社（食品会社10社、容器包装関連28社、大学・研究機関5機関）、来場者631名の皆様にご参加頂き、盛況のうちを終えることができました。大変ありがとうございました。

Next Package は食品会社と容器包装関連企業を一同に介し、双方の交流を目指した当協会独自の展示会として、2018年より開始しました。第3回、第4回はコロナ禍のためWeb展示会となりましたが、第5回より対面形式に戻し、出展企業、来場者の皆様が直接交流できる場として活用頂けるように致しました。今年度は初めて大学・研究機関の皆様に出席頂き、産官学交流のきっかけの場としても活用頂きました。昨年に続き、食品・包装関連の研究室を有する大学にも声掛けし、次世代の包装分野を担う学生さんにも参加頂きました。

2. 展示会の準備

2024年4月に実行委員6名と事務局2名でNext Package展示会委員会を発足し、準備をスタートしました。昨年の開催で会場の狭さ、混雑を指摘する声を多数頂き、従来のNEXT-1に加え、NEXT-2を使用した2部屋体制と致しました。今年度は例年よりも早くに出展企業が内定し比較的余裕をもって当日を迎えることができました。当日は、混雑を分散するため入場を3部制とし、また、出展企業様どうしの懇親の場を設けました。

3. 開催の様子

出展企業の皆様には9時過ぎから来場いただき、一般来場者入場までの1時間で慌ただしく、資料、サンプルを展示いただきました。何度か出展いただいている企業も多く、比較的手慣れた様子で準備が進みました。9時50分に当協会理事長の石谷より開会挨拶を行い、10時前にスタートしました。各ブースでは来場者と出展企業で熱心に懇談する様子が見られ、来場者が途切れることなく終始活気のある展示会となりました。会場が2部屋に分かれていて分かりづらいというお声を頂戴し、来年の課題といたします。

以下、出展企業43社の展示内容を簡単に記します。

◆食品会社

味の素 AGF (株)

環境にもお財布にもやさしいマイボトル専用のスティックタイプのパウダードリンク「Blendy®マイボトルスティック」の紹介。

味の素冷凍食品(株)

トレイをなくし、かつ利便性も維持したお弁当用冷凍食品「おべんと PONTM」の開発経緯を紹介。既存トレイ製品と比較してプラスチック使用量を 69%削減。

カゴメ (株)

容器開発のテーマと取組と題し、「植物性乳酸菌ラブレ」のストロー廃止によるプラスチック使用量削減や蓋材形状変更による開けやすさ改善の事例などを紹介。

キッコーマン (株)

容器開発の事例としてしょうゆ向け鮮度保持容器の変遷や 1L 容量ペットボトルの軽量化の取組みを紹介。衛生状態モニタリングシステム (ルミテスター) も展示。

キューピー (株)

自社のプラスチック基本方針、ドレッシングボトルとマヨネーズボトルの循環の取り組み、及びプラントベースフードと自社商品ラインナップの紹介。

ハウス食品グループ本社 (株)

箱入りレトルト製品の省資源化 (プラスチック、紙使用量削減) や、使い勝手を向上しつつ生産性向上と環境配慮を両立した味付け塩こしょう用キャップの紹介。

森永製菓 (株)

サステナビリティの取組みとしてゼリー飲料容器の事例を紹介。初期型から比較して、開けやすさを向上しつつパウチの薄肉化やストローの短尺化を達成。

雪印メグミルク (株)

環境配慮の事例としてプラスチック使用量を 10%削減したプラボトルドリンクシリーズの紹介と国内初の植物由来ポリエチレンを使用したアルミ付き紙容器の紹介。

理研ビタミン (株)

ドレッシング容器を活用したボトルタイプの液体濃縮スープ、ふりかけタイプの「ふりかけるザクザクわかめ®」の紹介と積み付け見直しによる輸送効率改善事例の紹介。

(株) ロッテ

容器包装の実現に向けた取り組みと題し、アイススティックに竹スティックを使用した事例やプラスチック製ガムボトル容器の回収・リサイクル実証実験を紹介。

◆容器包装関連

赤松化成工業 (株)

短納期化を達成する独自の商品開発メソッド「G3 システム」の紹介と、炭酸カルシウムを主原料とした容器「CaCoC」の展示。

押尾産業（株）

穴の開いた特殊フィルムを装着し内容物を適量ずつ振り出せる「ふりふりパック」や乳等省令 2 群対応スパウトパック、レトルト殺菌対応スパウトパックの紹介。

共同印刷（株）

食品向け酸素吸収フィルム「オキシキャッチ®BF」、パッケージ内のおいを吸収する「におい吸収フィルム」、飲料・食品向け高濃度アルコール対応包材の紹介。

旭洋（株）

MDOPE（縦方向延伸 PE）と専用シーラントの組合せによるモノマテリアルフィルム「ZIP FILM®」の紹介。ヒートシールレンジの広さと手切れ性の良さが特徴。

キョーラク（株）

耐圧 PET ボトルとパウチバッグの 2 重構造で、ガス圧で内容物を最後まで取り出せ、使用後はボトルとバッグを簡単に分別できる「スポッと eco ボトル」の紹介。

興人フィルム&ケミカルズ（株）

耐ピンホール性や耐寒性を有し重量包装に耐えうる二軸延伸 PBT フィルム「ボブレット®」、直線カットナイロンフィルム「ボニールーCLW」の紹介。

興和紡（株）

脱プラ・減プラ、CO₂削減など、環境に配慮した炭酸カルシウムを主原料とする素材「STONE-SHEET®」の紹介。可燃ごみとしても廃棄可能。

SAES Coated Films S.p.A

水系の酸素バリアコーティングを用いた透明バリアフィルム「COATHINK®」や堆肥化可能なバリアフィルム製品、モノマテリアル化、リサイクル性に優れたバリアフィルム製品の事例紹介。

サカタインクス（株）

モノマテリアル素材の軟包装パッケージとして、印刷方式 4 種；溶剤性グラビア、EB オフセット、水性フレキソ、水性インクジェットの比較と印刷サンプルの展示。

阪本印刷（株）

箱を変形させて内容物の倒れ込みを防止する「倒れ込み防止パッケージ」、円形ボトルが容器内で回転するのを防止する「回転防止パッケージ」などの紹介。

（株）サンエー化研

完全密封電子レンジ調理パウチ「レンジ Do!®」の進化版（耐熱タイプや横ピロータイプなど）や環境対応版（バイオマス PE タイプや酸素吸収タイプなど）の紹介。

シグマ紙業（株）

プラスチック使用量を極限まで減らした薄型軽量紙包装「オルカミパック®」の紹介。紙 100%使用・薄紙使用のため省資源化、かつヒートシール機能・スポットヒートシール機能付与が可能。

大日精化工業（株）

環境対応事例としてヒドロキシポリウレタン水性バリアコーティング剤と軟包装用のフレキシインキ「ハイドリック FCF LV」シリーズ（いずれも開発品）の紹介。

(株) 武田産業

バイオマス度 30%であるアルミレス遮光シーラント、白黒ポリオレフィン 30 エコフィルム「WBW-L 30E」（新規開発品）、レトルト対応の高強度・低臭フィルム「ブローアップポリプロピレンフィルム「BUPP」の紹介。

東洋アルミニウム (株)

蓋を押さえるだけで再封できる「トーヤル リシール®」、水分と反応して水素を生成し肉、魚、ワインを鮮度保持する「ハイドロフレッシュ®」（開発品）の紹介。

東洋インキ (株)

環境目標を達成するためのパッケージ提案として、剥離脱墨リサイクルシステムや VOC 排出量削減に貢献する水性グラビアインキ、水性フレキシインキなどを紹介。

東洋製缶 (株)

プラスチック使用量を削減し物流効率を向上した大容量パウチ「G-BOX」や無溶剤型接着剤ラミネートパウチ、モノマテリアルパウチなどの紹介。

東洋紡 (株)

東洋紡の容器包装用フィルムの紹介と環境配慮 ; Reduce、Recycle、Renewable に対応した各種フィルム銘柄の提案。

TOPPANホールディングス (株)

環境に配慮したパッケージ生産方式と題し、水性フレキシ印刷、ノンソルベントラミネート、デジタルプリント技術を紹介。併せて GL-BARRIER フィルムも紹介。

日本製紙 (株)

紙だけでパッケージができるヒートシール紙「ラミナ®」、紙製バリア素材「シールドプラス」などを 100 問 100 答の展示とともに紹介。

(一社) 日本包装機械工業会

包装機械・包装材料・関連機器のメーカーや販売会社で構成する団体であり、広報・販売促進事業である P&M 通信や人材育成事業である包装学校などの紹介。

(株) フクダ

抜取検査用の包装容器エアリークテスト装置、及び完全自動・非破壊検査のバイアル全数漏れ試験装置の紹介。

ポリプラスチック (株)

保香性、ガスバリア性、耐水耐油性、電子レンジ適性を有する「DURANEX®PBT フィルム」、及び水蒸気バリア性、易カット性を有する「TOPAS®COC フィルム」の紹介。

三笠産業 (株)

バイオマス PET やケミカルリサイクル、メカニカルリサイクルされた PET ボトルなど

の環境配慮製品、及び各種スパウト類の紹介。

三井化学（株）

軟包装フィルムのメカニカルリサイクルと題し、リサイクル技術の開発ステップの説明と印刷済 OPP フィルムを用いた実証実験の紹介。

三菱ケミカル（株）

エチレンービニルアルコール共重合体樹脂「ソアノール™」とソアノール™を使用した環境対応包装事例や鮮度保持包装やガスバリア紙への用途展開事例の紹介。

（株）悠心

粉碎含浸による高品位シールを達成した充填機「GANSHIN NEO」、ヒートシール状態をリアルタイムでモニター表示できる「充填支援システム FSS」、横ピロー型製袋方式により落下高さを低減した低床型包装機「A one」の紹介。

（株）吉野工業所

食品用デラミ容器と題し、ボトルとキャップの基本構造や、内容物を吐出した後に内層袋と外層ボトルの間に空気が入る仕組みを解説。

◆大学・研究機関

群馬大学理工学府 環境調和型材料科学研究室

「生分解開始スイッチ機能を有する海洋生分解性プラスチックの開発」と題し、粕谷教授をリーダーとしたプロジェクト概要や、環境流出後の外部刺激により分解を開始するスイッチ機能開発と実証試験について紹介。

十文字女子大学 人間生活学部 食品開発学科

食の科学を中心とした、食の機能性、安全安心、開発、おいしさ、ビジネスを網羅する食品開発学科の教育概要と「あまりん紅茶」など開発に関わる事例を紹介。

東洋食品工業短期大学

日本で唯一の包装食品工学科を設置する当校の概要と教育内容を紹介。食品製造実習で開発した缶詰食品、レトルト食品などの製品事例を紹介。

日本女子大学家政学部 食品学・食品包装学研究室

国内の4年制大学において食品包装を冠する唯一の常設研究室であり、大テーマとして掲げる「食品ロス削減のために包装ができることを考える」にもとづいた最近の研究テーマと研究成果、活動実績の紹介。

農研機構 食品総合研究所

「ミカンの腐敗を軽減する縦型整列梱包容器の開発」と題し、縦方向に仕切りを設置し荷重を鉛直方向のみに限定する縦型整列梱包容器の開発と性能評価結果を紹介。

説明資料やサンプルを分かりやすく展示下さり、来場者は展示品を実際に手に取ったり出展企業へ質問したり、活発に意見交換する様子がみられました。また、会場規模が小さいこともあり、出展企業同士の交流も見られました。17時前に実行委員の和手より閉会

の挨拶を行い、17時半まで簡単な懇親会を行いました。

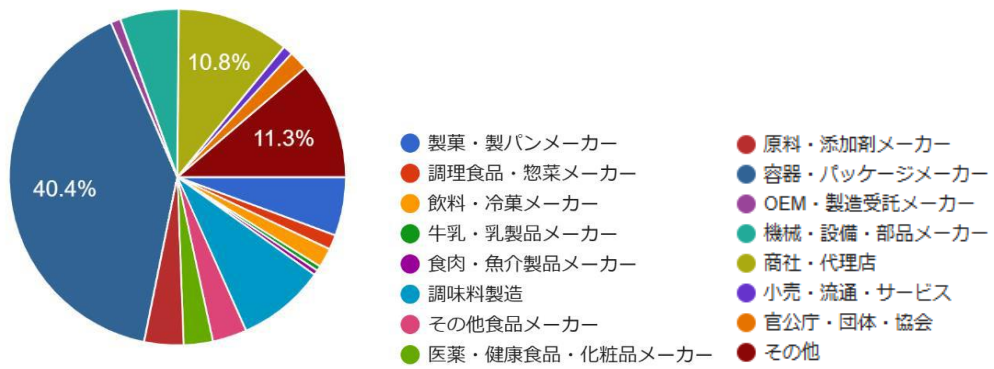
出展企業の皆様からは、技術的な深い議論ができた、普段は接点のない企業とコミュニケーションをとることができた、対面開催で情報収集がしやすかった、開発品に対するヒアリングや製品の販促の場として活用した、同業他社と交流できてよかった、などの声を頂きました。また、出展費用が安価である、開催期間が1日で出展しやすい、このような交流の場があることが貴重であるとのことのご意見もいただきました。一方、出展企業数に対して会場がせまい、NEXT-2の会場が分かりづらかったとのことご指摘をいただきました。



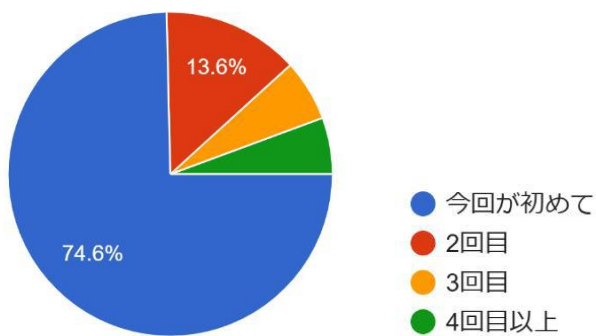
4. アンケート結果

200名以上の来場者の皆様に回答頂きました。以下に掲載いたします。

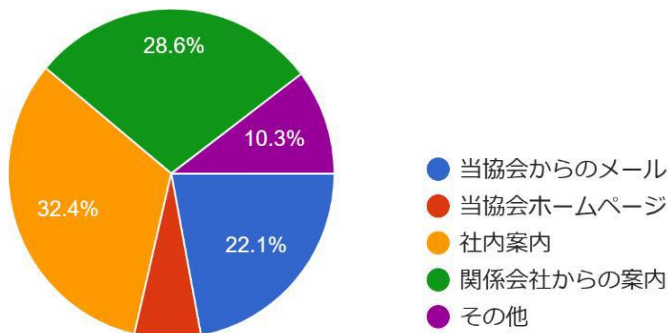
Q1 あなたの業種を教え下さい。



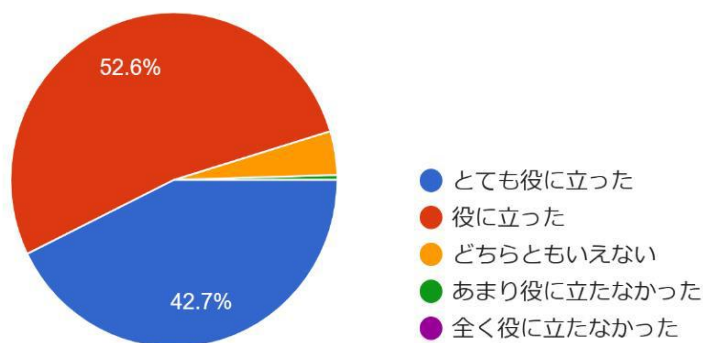
Q 2 Next Package に参加したのは何回目ですか？



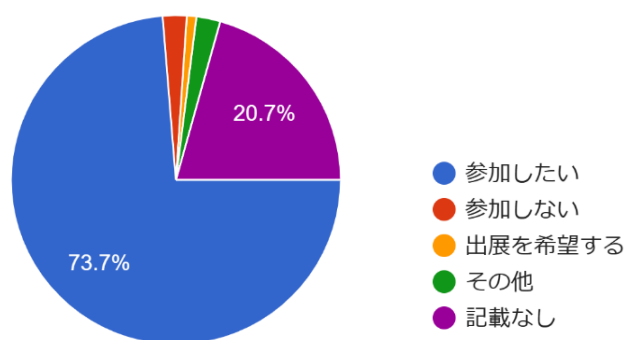
Q 3 Next Package をどこで知りましたか？



Q 4 Next Package に参加して役に立ちましたか？



Q 5 次回も Next Package に参加したいですか？



Q 6 お気づきの点やご意見がありましたら教えてください。

- ・役に立つ情報がたくさんあった。日本を代表する食品メーカーから直接エコや環境に対する取り組みを伺うことができた。来年も開催してほしい。
- ・意見交換ができた。勉強になった。
- ・大規模な展示会と違い、近い距離で話すことが出来て良かった。
- ・新しい商品やアイデアなど気づきがありよかった。自社の商品開発に生かせそうな技術の発見があった。
- ・昨年より部屋が広くなって見易かった。ほぼ毎年参加しており、年々少しずつでも技術が向上しているなど感動した。学生さんの説明も珍しく企業だけでなくいろいろな取り組みがあるのだなと思い勉強になった。
- ・市販されている商品でも案外知らないものがあり再発見できた。
- ・入場規制の効果があり、ストレスなく見学できた。
- ・会場がせまい。もう少し広いとよいと思う（もしくは会期を長くしてほしい）。
※同意見を多数いただきました。
- ・NEXT1とNEXT2があるのがよくわからなかった。NEXT1で帰るところだった。

5. おわりに

第7回 Next Package2024 は盛況のうちに終了し、出展企業の皆様には準備、当日の長

時間に渡るご説明に感謝申し上げます。引き続き Next Package と食品包装協会へのご協力をよろしくお願い致します。

<第7回 Next Package 展示会委員会>

実行委員長

大日方 野枝 (TOPPANホールディングス(株))

実行委員

伊藤 光太郎 (雪印メグミルク(株))

及川 英之 (味の素 AGF(株))

春名 孝浩 ((株)吉野工業所)

和手 憲幸 (キューピー(株))

顧問

桑垣 傳美 (キッコーマンビジネスサービス(株))

事務局

石井 勝巳、藤田 尚子 ((一社) 日本食品包装協会)



大日方 野枝 (OBINATA, Noe) TOPPANホールディングス(株) 総合研究所所属。1996年凸版印刷(株)(当時)入社以降、医薬品や食品包装、微生物制御に関わる研究開発に従事。2006年米国ラトガーズ大学にてアクティブパッケージ分野でPh.D.取得。香川大学大学院農学研究科非常勤講師。(一社)日本食品包装協会 Next Package展示会委員会委員長。<趣味>電車旅、読書
〒345-8508 埼玉県北葛飾郡杉戸町高野台南 4-2-3

TOPPANホールディングス(株) 総合研究所

E-mail: noe.obinata@toppan.co.jp